

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践 Integration and Nursing Practice	単位	1
		時間	30
		方法	講義
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	安全な看護を提供するための基礎的知識として医療安全、感染管理、災害看護、国際看護を学ぶ。		
目標	1. 安全な医療提供のための看護を理解する。 2. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。 3. 国際社会において、看護師としての国際貢献について理解する。		
評価方法	医療安全：筆記試験 35 点 感染管理：筆記試験 30 点 災害看護：筆記試験 20 点 国際看護：レポート評価 15 点		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践【2】 医学書院 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践【3】 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 基礎看護学【3】 医学書院		
参考図書			
メッセージ	医療安全および感染管理は、看護師としての全ての業務・患者の安全に関与します。 医療安全の観点からは、「してはならないこと」「すべきこと」根拠・理由をしっかりと基本に基づき知識と技術を学んでいきましょう。そして安全な医療提供のための看護をさらに考えましょう。 国際看護では、諸外国の健康問題や国際貢献について考えましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	人間の特性と医療事故	医療事故と看護業務について理解する	<1～5 医療安全> 医療事故と看護業務 医療事故の構造、事故防止の考え方、 患者確認の基本(患者確認の厳守、 複数の患者情報による確認、患者と共に確認) 事件事例 4 例 与薬における患者誤認 検査における患者誤認 配膳における患者誤認 検体採取時の患者誤認	講義	外部講師
2	注射事故と事故防止	輸液ポンプの安全使用について理解する	輸液ポンプの安全使用：フリーフローとは 輸液ポンプのエラー事例	講義 DVD	外部講師
3	臨床現場のアラームシステム、ドレーン・チューブの管理	臨床現場のアラームシステムについて理解する	臨床現場のアラームシステム、事件事例 3 例 心電図モニターの事故 人工呼吸器のヒヤリハット 人工呼吸器の加温加湿器への エタノール誤注入	講義 DVD	外部講師
4	輸血業務と事故防止	輸血はどのような時行われるか。 血液型採血の確認手順、輸血の手順、 血液製剤の種類と有効期限について事例から学ぶ	輸血はどのような時行われるか 1)事例から学ぶ 2)血液型採血の確認手順 3)輸血の手順 4)血液製剤の種類と有効期限	講義 DVD	外部講師
5	療養上の世話と事故防止	誤薬注射事故は何故起きたのか、事例を通して考える	誤薬注射事故は何故起きたのか事例を通して： 消毒薬を誤って静脈注射した事故	講義 DVD	外部講師

看護の統合と実践

6	感染管理	感染管理 関係法規、感染管理組織と看護師 について理解する	< 6 ~ 9 感染管理 > 関係法規、感染管理組織と看護師	講義	外部講師
7	標準予防策	感染管理の実際 病棟内での心がまえ、標準予防策 を理解する	感染管理の実際 病棟内での心がまえ、標準予防策	講義	外部講師
8	感染経路別予防策	感染管理の実際 標準予防策、防護用具、針刺し 予防を理解する	感染管理の実際 標準予防策、防護用具、針刺し予防	講義	外部講師
9	看護ケアと感染対策	感染管理の実際 経路別予防策、看護ケアと感染 対策を理解する	感染管理の実際 経路別予防策、看護ケアと感染対策	講義	外部講師
10	災害の種類と分類	災害の種類と分類 災害サイクル、災害要援護者、 災害看護の役割を理解する	< 10 ~ 12 災害看護 > 災害の種類と分類 災害サイクル、災害要援護者、災害看護の役割	講義	外部講師
11	災害医療の特徴	トリアージおよび災害拠点病院 について理解する	トリアージ、災害拠点病院	講義	外部講師
12	トリアージの実際	トリアージの方法を理解する	トリアージの方法	演習	外部講師
13	国際看護 国際看護の目的 と世界共通の目 標	世界共通の目標を理解する 看護師の役割からアプローチで きる目標を見いだす	1 . 国際協力について 1 ) ODA 2 ) OECD 3 ) 国際機関 2 . グローバルヘルス 1 ) プライマリヘルスケア 2 ) 世界共通の目標 ( 1 ) MDGS ( 2 ) SDGS	GW	専任教員
14	国際看護 世界で活動する 看護師	世界における看護師の活動がわ かる	1.海外活動の実際 1 ) 国際協力 2 ) 文化を考慮した看護	講義	外部講師
15			終講試験		

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習 Integration and practice Nursing Practice	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	<p>領域別実習終了後、統合カンファレンスを行い、あらゆる対象に応じた看護について学んだ知識・技術を統合する。</p> <p>また、緊急・突発要件の発生時に適切な判断・対応を求められる中で、安全な看護の提供と複雑な状況での判断・対応ができるようより臨床に近い環境を想定し、看護の実際を学ぶ。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あらゆる対象に応じた看護について学んだ知識・技術を統合する</li> <li>2. タイムプレッシャー・多重課題発生時の対応が実践できる。</li> <li>3. 緊急時の対応が実践できる。</li> <li>4. 自己の傾向を踏まえ今後の課題を考える。</li> </ol>		
評価方法	<p>各領域(基礎以外)の統合カンファレンス：各領域 6 点 計 36 点</p> <p>演習の参加態度を総合して判断する。</p> <p>多重業務・業務中断等事例演習：64 点</p> <p>事前課題、個人ワーク・グループワークレポート、演習参加態度を総合して評価する。</p>		
使用テキスト			
参考図書			
メッセージ	<p>&lt;各領域の統合カンファレンス&gt;</p> <p>領域別看護を学ぶ最後の機会となります。自己の気づきや考えを表現してみましょう。</p> <p>&lt;多重業務・業務中断等事例演習&gt;</p> <p>多重課題発生時どのように考えどのように行動するか考えましょう。</p> <p>今までの行動を振り返り、自己の傾向と課題を明らかにしましょう。</p>		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	精神看護学実習の学びの統合	精神看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	<1~6：3 年次領域別実習終了後の統合カンファレンス> 1)精神看護学実習後の統合カンファレンス テーマ：領域別実習を終えて、今考える精神看護		
2	老年看護学実習の学びの統合	老年看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	2)老年看護学実習後の統合カンファレンス テーマ：生活機能に視点をいた援助の効果について考える		
3	成人看護学実習の学びの統合	成人看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	3)成人看護学実習後の統合カンファレンス テーマ：成人期にある対象への健康状態に応じた看護について		
4	在宅看護論実習の学びの統合	在宅看護について、既習の知識と実習での学びを統合する。	4)在宅看護論実習後の統合カンファレンス テーマ：在宅で生活する療養者とその家族の看護		
5	母性看護学実習の学びの統合	母性看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	5)母性看護学実習後の統合カンファレンス テーマ：「周産期および新生児期にある対象への看護とは」		
6	小児看護学実習の学びの統合	小児看護について、既習の知識と実習での学びを統合する	6)小児看護学実習後の統合カンファレンス テーマ：様々な場で生活する子どもの看護実践とは		

看護の統合と実践

7	多重課題時の総合判断(1)	事例を読み、対象の状態を理解し、Q1・2の対応を個人で考える	時間制限、割り込み業務、業務中断、多重処置の入った事例を使った演習を行い分析する 事例を読み対象の状態を理解し、Q1・2の対応を個人で考える		
8	多重課題時の総合判断(2)	事例を読み、対象の状態を理解し、Q1・2の対応をグループで考える	Q1・2の対応をグループで考える	GW	
9	多重課題時の総合判断、実際(3)(4)	複数受け持ち、タイムプレッシャーの中、多重課題をどのように判断するか実践しながら考える	場面 の状況に対する Q1:患者 A の援助中に患者 B への対応をどうするか。患者 A からどのように離れればよいかをタイムプレッシャーの中、多重課題をどのように判断するか実践しながら考える。	演習	
10					
11	多重課題時の総合判断、実際(5)	複数受け持ち、タイムプレッシャーの中、多重課題時の総合判断が述べられる	グループ発表(プレゼンテーション) 対象の安全・安楽を考慮し、どのように判断し、なぜそうしたのか話し合う。	演習	
12	緊急時の対応、実際(1)	対象の緊急時の対応をどのように実践するのかを考える	場面 の状況に対する Q2:看護師としてどのように対応するか、緊急時の対応を実践しながら考える。	演習	
13	緊急時の対応、実際(2)	対象の緊急時の対応が述べられる	グループ発表(プレゼンテーション) 対象の状態をどのように判断し、なぜそうしたのか話し合う。	演習	
14	緊急時の対応、実際(3)	膀胱内留置カテーテルの交換の基本的知識、技術、態度を理解する	膀胱内留置カテーテルの交換	演習	
15	多重課題や緊急時の学びの統合	援助を振り返り、タイムプレッシャーや急変時の自分の傾向を知る	まとめ 演習でのタイムプレッシャーや多重課題時の自己の傾向を知り、患者の安全・安楽を守り、確実な援助を行うための行動を振り返る。	講義 GW	

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護の統合と実践演習 Integration and practice Nursing Practice	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	<p>対象に適した看護技術を安全に提供するための実際を学ぶ。統合技術試験では、注射の目的や対象の状況を理解し、安全に正確に提供するための実際を学ぶ。</p> <p>また、防災演習では、病院からの避難・誘導を経験し、災害時の看護師の役割を考える。更には、既習の知識を活用し、心肺蘇生法を後輩に伝達指導する。</p> <p>複数受け持ち演習では、模擬患者の事例から、多重課題、優先順位を判断する根拠や問題点を考え、対象にあった看護を安全に提供できる判断力を養う。また、医療依存度の高い患者に必要な技術の実践として、実習経験の頻度が低い口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージの実施を基本知識の確認を行い、対象の状態に合った技術を理解する。呼吸管理の流れとして人工呼吸療法についても学ぶ機会とする。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象にあった看護技術を模擬患者に実施することができる。</li> <li>2. 安全な医療提供のための看護の実際を学ぶ。</li> <li>3. 模擬複数患者に対する患者管理を学ぶ。</li> </ol>		
評価方法	<p>統合技術試験 与薬：技術試験 1 項目 10 点 3 項目 計 30 点 評価は、評価表の項目に基づき評価し、1 度目の試験結果が成績となります。 しかし、技術の保証のため、再試験を受けて合格するまで実施してください。</p> <p>防災演習 避難訓練：演習レポート 10 点 計 10 点 複数受け持ち演習 技術演習：計 60 点 事前学習、演習レポート、演習への参加態度、テーマに沿ったレポートを総合して評価します。</p>		
使用テキスト			
参考図書			
メッセージ	<p>&lt;統合技術試験 与薬&gt; この単元は、技術試験となります。オリエンテーションは、単元の時間外に事前に行います。各自が試験にむけて計画を立てて自己学習し練習を行いましょう。 安全・確実な技術の修得を目指しましょう。</p> <p>&lt;防災演習 避難訓練&gt; この単元は、秋季避難訓練の中で実施されます。避難訓練の内容や避難経路を事前に確認して下さい。BLS 訓練は、当日の計画を立案し、事前の確認や準備を行い演習にあたって下さい。後輩全員へ指導ができるよう臨むことを期待します。</p> <p>&lt;複数受け持ち演習 技術演習&gt; 病態生理各論で習った知識を活かして看護を理解しましょう。</p>		

看護の統合と実践

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	注射に関する看護技術	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	< 1～4 統合技術試験 > 統合技術試験内容は以下の3項目を実施する。 ・静脈血採血 ・静脈注射 ・静脈内点滴注射 1回目は静脈血採血の実施	試験	
2	注射に関する技術試験	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈注射（ワンショット）	試験	
3	注射に関する技術試験	目的を理解し、安全かつ正確な注射に関する技術を理解する	静脈内点滴注射	試験	
4					
5	防災演習	実習場所からの避難経路がわかり、災害時の対応が述べられる	防災演習（避難訓練参加） 1)災害時の避難、誘導	演習	
6	BLS 演習	心肺蘇生法の技術の習得および後輩へ伝達指導する	2)救命救急処置 チューターグループ毎にBLSを行う。 所要時間内に全員が体験できるよう計画立案し、実践する。	演習	
7	災害時の看護師の役割	避難訓練を通して災害時の看護師の役割を述べられる	3)まとめ レポートをもとにディスカッション テーマ：避難訓練を通して、看護の視点で感じたこと、考えたこと	個人ワーク	
8	複数受持ち演習	複数受持ち模擬患者の情報から、1日の業務計画を立案する	< 8～11 複数受持ち演習 > 1.複数受け持ち患者の情報の整理 2.複数受け持ち患者の1日の業務計画立案と時間管理・調整	個人ワーク	
9	複数受持ち演習	多重課題発生時の優先順位を判断する根拠を述べられる	1)患者情報の整理と多重課題の抽出 2)多重課題、優先順位の判断 どのような思考を用いて判断したのか ・優先順位の判断 ・重症度の判断 ・緊急性の判断 ・患者の安全 ・報告・相談・連絡	GW	
10	複数受持ち演習	自己の傾向を理解し、多重課題発生時の問題点とその対応を述べられる	1)多重課題、優先順位を判断する根拠、問題点とその対応 ・優先順位の判断 ・重症度の判断 ・緊急性の判断 ・患者の安全 ・報告・相談・連絡 ・自分の心理	GW	

看護の統合と実践

11	複数受持ち演習	自己の傾向を理解し、多重課題発生時の問題点とその対応を述べられる	1)多重課題、優先順位を判断する根拠、問題点とその対応 ・優先順位の判断 ・重症度の判断 ・緊急性の判断 ・患者の安全 ・報告・相談・連絡 ・自分の心理	GW	
12	医療依存度の高い患者に必要な技術	原理原則に基づいた口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージを理解する	< 12～15 医療依存度の高い患者に必要な技術の実践 > 基本知識の確認を行いながら、口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージの実施	演習	
13	医療依存度の高い患者に必要な技術	対象の状態に合わせた口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージを理解する	医療依存度の高い患者に必要な技術の実践 模擬患者の状態に合わせて、口腔・鼻腔吸引・体位ドレナージの実施	演習	
14	人工呼吸療法	人工呼吸療法について理解する	人工呼吸療法 人工呼吸器の設定項目 人工呼吸器使用の流れ 加温加湿器と人工鼻 人工呼吸中のモニタリング、パルスメーターオキシメータについて	講義	外部講師
15					

分野	看護の統合と実践 - 看護の統合と実践 -	対象学年	3
		時期	後期
授業科目	看護理論演習 Practice of Nursing Theory	単位	1
		時間	15
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	ケーススタディの発表で看護についての考えを深める。その後、看護の統合と実践実習後の統合カンファレンスでの「看護について」グループで考えた内容を発表し、全体で看護に対する考えを深める。3年間の学びの集大成として、これまで深めてきた自己の看護観をまとめる。これまでの看護の経験を通して、理論を活用し意味づけができ、自己の看護観を深める機会とする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケーススタディに取り組み自分の看護について思考する。</li> <li>2. 看護に対する考えを深める。</li> <li>3. 看護の理論を活用して探求する。</li> <li>4. 自己の看護観を深め自己の「看護観」をまとめる。</li> </ol>		
評価方法	ケーススタディ発表：指導教員評価および講評による評価 ケースレポート作成の評価 20点、発表の評価 10点 計30点 看護の統合と実践実習後の統合カンファレンス：態度評価 20点 看護理論演習：出席状況、態度、課題、レポート評価を総合して評価する 50点		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】 看護学概論（医学書院） やさしく学ぶ看護理論（日総研出版） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 第2版、照林社、2009、60.		
参考図書	系統別看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 看護研究こころえ帳 医歯薬出版 エッセンシャル 看護情報学 医歯薬出版		
メッセージ	ケーススタディの発表を通して、お互いに看護についての考えを深めていきましょう。 統合実習後の統合カンファレンスでは、「看護について」グループで考えた内容をわかりやすく発表しましょう。 看護観をまとめることは、3年間の学習の集大成です。 実習・ケーススタディで深めた自己の看護観をまとめましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	ケーススタディ 発表	ケーススタディ発表で、看護についての考えを述べられる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当教員からケーススタディの指導を受け、看護の意味づけをする。</li> <li>2. 得られた学びを学校内で発表する。</li> <li>3. 評価を受けて自分の看護観に繋げる。</li> </ol>	発表会	
2					
3	統合カンファレンス	看護の統合と実践実習で学んだこと、看護についての考えを述べられる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の統合と実践実習で、看護の経験を通して学んだこと、看護に対する考えを深める。</li> <li>2. グループで発表資料を作成し、発表する。</li> <li>3. 全体討議を通し、看護についての考えを深める。</li> </ol>	統合カンファレンス	
4					
5	看護理論の理解	さまざまな看護理論について理解する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな看護理論 看護理論の種類 特徴 哲学：ナイチンゲール 大理論：キング 状況理論 中範囲理論</li> </ol>	講義	



看護の統合と実践

6	看護理論の理解	さまざまな看護理論について理解する	1.さまざまな看護理論 看護理論の種類 特徴 働きかけの看護理論：ヘンダーソン 人間関係理論：ペプロウー・キング 対象論的看護理論：ロイ・ニューマン	講義	
7	看護観GW	看護の統合と実践実習前にグループで各自の看護観を共有する	1.看護観指導 事前に提出された看護観をもとに指導を受ける	GW 演習	
8	看護観GW	実習の体験を通して得た看護観を深める	1.看護観指導 事前に提出された看護観をもとに指導を受ける	GW 演習	看護観指導は、看護の統合と実践実習での指導担当教員から指導を受ける。その後、看護観提出収録集を作成し、国家試験受験後、看護観発表会を行う。（発表は評価に含まれない）